

各項目と目的

項目全てクライアントのエンパワメントにつながる構造にしています

① 課題の分離	<ul style="list-style-type: none"> ・相談員が問題を背負いすぎると、クライアントは依存的になるためクライアントの課題と相談員の課題を混同せず、主体性を尊重する ・課題の分離は「誰の課題か」を明確にすることでクライアントの自立の芽を育てる ・過干渉を避け、クライアントの意思決定を促す
② 多面的な捉え	<p>問題課題を一方向から捉えるのではなく、感情・状況・関係・環境・制度など複数視点で整理し立体的の問題、課題の構造を捉える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視野拡大 ・思考の柔軟性向上 ・感情の整理
③ 事実と解釈の区別	<p>クライアントの語りを事実・感情・解釈に分けて整理する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より正確に共有 ・クライアントの事実に対する認識を再確認 <p>誤解や決めつけを防ぎ、判断力、思考整理能力の向上を育む</p>
④ 専門的見地からの関わり	<p>専門知識や行動の選択肢を増やす</p> <p>ひらめきの着火剤</p> <p>新しい選択肢の獲得</p> <p>思考の抽象化能力向上</p> <p>行動の具体化</p>
⑤ 質問の質	<p>削除・歪曲・一般化に対応した具体的な質問で、クライアントの考えや感情を言語化させる</p> <p>自己効力感・主体的意思決定の材料に気づく</p>
⑥ クライアントの言葉・アイデアの拾い方	<p>クライアントの発言やアイデアを相談員主導で終わらせず、主体性を戻す</p> <p>自己効力感、自尊心を育み自立の土台を作る</p>
⑦ 雑談や目的調整の柔軟性	<p>面談中に安心感や関係性を作り、考える余白を生む</p> <p>心理的安全性の形成</p> <p>自己開示促進</p> <p>内省の質向上</p>